

# 令和5年度 上矢部地域ケアプラザPDCAシート（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

## — 総括表 —

### ◆ 事業計画

#### 地域の現状と今後の方向性

上矢部地域ケアプラザは、上矢部町・鳥が丘・矢部町が、上矢部連合町内会と戸塚第三地区連合町内会の2つの連合町内会に分かれている。マンション等が建ち、子供のいる世帯が増えている地域もあるが、高齢化率が40.7%を超えているエリアもある。高齢者の単身世帯や夫婦のみ世帯も増加している。特に令和3年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため各種行事が縮小となり、高齢者の活動の機会が極端に減少したため、令和4年度は少しでも多く講座や行事が再開できるよう工夫をし、少しずつではあるが高齢者の居場所づくりが出来た。しかし、地域の全体的な現状把握が難しくなる一方、老老介護や支援を拒否して孤立する世帯、虐待など多問題を抱え生活が困難、生活困窮者になるケースが浮き彫りになってきている。

そこで、今年度は新型コロナウイルス感染症の再流行に気をつけながら、地域の現状を再確認し、ICTも活用した活動の検討を行う。ケアプラザ内もしくは昨年以上に地域に出向いて講座等を開催し、ケアプラザエリア全体に情報発信をしていく。その中で地域住民とともに考え、見守り支援グループと連携しながら地域の課題やニーズ及び個別の問題解決を図る。必要に応じて地域ケア会議を開催して地域住民や関係機関と連携し、安心して住みやすい街づくりを推進する。

新規	継続	— 具体的な取組内容 —
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<地域交流>・ケアプラザの自主事業での活動の提供をするとともに地域の活動を把握し、地域活動がしたい人と担い手がほしい活動をつなぎ活動出来る場の支援と情報提供をしていく。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<包括的・継続的ケアマネジメント事業>地域の関係支援機関(障害関連、高齢関連など)に関するテーマを含む勉強会を年2回程度開催。上矢部エリアの居宅ケアマネジャーと事例検討会を年2回程度開催。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<介護予防事業>元気づくりステーション・自主化しているグループに関しては運営状況を把握し、参加者が意欲的に取り組めるよう支援していく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<生活支援体制整備事業>戸塚第三地区見守りネットワーク事業の活動を地域に知ってもらうため、年に2回「戸塚第三ネットワーク訪問事業デュランタ」で広報誌2500部作成し、地域に配布。また、定例会にて活動周知のための提案をしていく。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<権利擁護>終活についての講座を年1~2回開催企画する。また、地域からの依頼に応じ、出前講座を行う事で、より身近に地域に対して、制度や社会資源の活用等普及啓発を行う。

### ◆ 事業報告・事業実績評価

#### 振り返り

今年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行しましたが、感染対策を取りながら横浜市及び戸塚区の所管の指導に従って人数を増やしたり調整を行い事業を実施しました。クリスマスコンサート・歌声喫茶・通いの場も人数を増やし1人でも多くの方に参加できるよう実施しました。

総合相談の分野では、虐待・8050問題・生活困窮などの問題が多く、解決に向けての支援が難しくなっているのが現状です。各機関や病院と連携を取り問題解決に向けて協力して支援しました。

・コロナ禍で活動自粛していた担い手が、活動に復帰できるよう支援したり、フェスティバルや通いの場などの新たな活動場所の提供をしました。

・ケアマネジャーの勉強会としてはアルコール問題・在宅リハビリテーションの紹介などの勉強会を開催し、また多職種の事例検討会を2回開催しました。ケアマネジャーからの活発な意見交換が出来ました。

・通いの場では元気づくりステーションのメンバーが区役所での担い手育成講座に参加したり、新たにできたグループが自主的に活動に参加できるよう支援しました。講座内容を一新し、新たな参加者も増えました。

・生活支援体制整備事業を地域の方に知ってもらうために、年に2回の広報誌2500部配布し地域の回覧版やポストにて活動紹介をしました。

・終活に関しては介護予防のフレイル予防講座の中で開催しました。また、窓口でエンディングノートを説明しながら配布したり、認知症サポーター養成講座の中でもエンディングノートの紹介をしました。

地域の活動に多く出向き、子供からお年寄りまで住み慣れた町で暮らせるよう多職種で協力しながら支援しました。